

ふくしま農業女子ネットワーク
農女びより



百笑一姫の
Fukuがある
ネットワーク
のロゴマーク



すとう農産の有機栽培で活躍するアイガモとポンド亜貴さん

▶ふくしま農業女子ネットワーク（愛称：百笑一姫♡Fukuがある）メンバーの思いや農作物、ネットワークの活動状況、イベント情報などをホームページで発信しています。参加メ

ンバーや応援団となる企業・団体も応募も受け付けています。URLはhttps://www.fuku-girl.jp/ 問い合わせは事務局 県農業担い手課 電話024(521)7340へ。



すとう 須藤ポンド亜貴さん（喜多方市）

福島の有機広めたい

実家は代々続く農家で、兄は15代目。父はコメの有機農法としてアイガモ栽培を実践しています。一方、私は農業の道には全く関係ないアートの興味を持ち、ポーランドで日本語教師をしながら、アートイベントの企画・運営に12年間ほど携わっていました。

その道を突然揺るがしたのが、東日本大震災でした。両親は電話で「大丈夫だ」と言っていました。その声に強さはなく、心配が募りました。さらに翌年、ポーランドの私の親友が突然、白血病を発症し、余命1年の宣告を受けました。医師から「オーガニックの物を食べ、衣服も全てオーガニックにするように」とアド

バイスを受け、一緒にオーガニックの素材を料理して食べることを続けました。1年後、驚くことに彼女の白血病の細胞が消えていたのです！これを機に「オーガニックは素晴らしい！私でも何か力になれるのでは」と考え、実家の有機農法を手伝うため帰国を決意。帰国翌日には種まきを始めました。

直面したのは「福島の有機農作物は売れない」という風評被害の現状でした。それでも、有機栽培は安全な作物という信念で、6次化商品と営業を担当。父や兄が作った自慢のお米を、玄米コーヒーなど手に取りやすい形に変えてお店に置いてもらえるようにしました。

農業者としては、まだ未熟ですが、今までの体験を生かしながら活躍の場を与えてくれる父や兄に、感謝の気持ちでいっぱいです。昨年11月に農産物の安全認証制度「グローバルGAP」の認定を受けました。「福島の有機」最高に安全な品質」というイメージの定着につながるよう、活動していきます。

【プロフィール】 会津若松市北会津町出身。喜多方市でスコットランド人の夫と愛猫と暮らす。会津若松市北会津町の「すとう農産」取締役を務め、主にコメを有機農業で栽培。6次化商品開発も進める。アイガモと触れ合う農業体験「Duck Day」を毎年開催している。小中高美術教員と、学芸員の資格も持つ。